令和３年度　加古川市教育委員会不登校対策推進委員会の実施状況

１　第２回加古川市教育委員会不登校対策推進委員会について

○　令和４年２月 24 日（木）
　第２回加古川市教育委員会不登校対策推進委員会をリモートにて実施

○　加古川市内３中学校区ユニットによる実践事例発表
・メンタルサポーターの温かく地道な関わりによって、別室登校を始めてから本人の精神状態は格段に良くなった。
・学級担任の継続した粘り強い働きかけによって、本人だけでなく母の意識も大きく変化した。
・小・中・関係機関の連携により、家庭環境や本人を取り巻く周囲の状況を把握することによって、本人や母に寄り添うことができた。

○　助言及び講評　兵庫大学健康科学部健康システム学科　講師 細川愛美 氏

２　加古川市教育委員会不登校対策推進委員会について

○　令和３年度の活動状況

回	月/日	会場	内　容
1	５/24 （月）	リモートにて実施	・令和３年度の不登校対策の推進について
2	６/24 （木）	市民会館大ホール	（兼）子どもの不登校を考えるつどい ・演題　「子どもの声に耳を傾けていますか？」 －様々な問題を抱える子どもを支援するために－ 講師　フリースクール　For Life　副理事長　　矢野　良晃　氏
3	９月	各中学校 （中学校区ユニット単位）	ユニット別不登校対策会議（情報交換） ・不登校、もしくは不登校傾向のある児童生徒の現状 ・保健室、相談室、別室等の利用状況
4	11 月	各中学校 （中学校ユニット単位）	ユニット別不登校対策会議（情報交換） ・不登校、もしくは不登校傾向のある児童生徒の現状 ・保健室、相談室、別室等の利用状況 ・Chromebook を活用した不登校対策の状況
5	２/24 （木）	青少年女性センター 各校リモート	事例発表

３　成果と課題

（１）不登校対策についての情報交換

　不登校児童生徒について、担当者同士がユニット校区内会議において情報を共有し、未然防止、早期発見・早期対応、また長期的な視点で支援ができるような話し合いの機会をもつことができた。定期的に開催することで、担当者同士の連携が深まり、積極的に情報交換をすることができた。

　一方で、担当者全体で集まることができていないため、中学校担当者同士、小学校担当者同士の横の連携をより深めていくことが課題である。新型コロナウイルスの感染状況にもよるができるだけ担当者全体で集まれる機会を確保し、リモート開催であっても横の連携がとれるように工夫して開催することが必要である。

（２）不登校についての研修及び活動

　６月に実施した第２回不登校対策推進委員会では、市民、保護者、教職員合計 225 人が参加し、子どもの声にじっくりと耳を傾ける大切さについて学ぶことができた。日々多忙な学校現場でも、ゆとりをもって子どもの話を聞くことのできる環境づくりを支援していくことが必要である。

（３）不登校の未然防止、早期発見・早期対応に向けて

　学級担任による電話連絡や家庭訪問を通して、これまで以上に不登校傾向のある児童生徒に寄り添い対応した。また、学校生活の満足度を向上させるために、児童会、生徒会活動を充実させたり、学校行事を工夫したりと、コロナ禍のもと、知恵を絞って様々な取組を行った。しかし、これらの対応は、各学校の中にだけ留まっていることが多い。不登校の未然防止に取り組むためにも、成功事例の共有が必要である。

令和３年度　メンタルサポーターの活動状況

１　別室利用状況（のべ人数）

	令和２年度	令和３年度
合計利用者数	9,462 人	10,793 人
一校当たり月のべ人数平均	65.7 人	75.0 人

２　家庭訪問実施状況（のべ人数）

中学校学年	令和２年度		令和３年度	
	合計	一校当たり月平均	合計	一校当たり月平均
１年	56 人	0.4 人	160 人	1.1 人
２年	247 人	1.7 人	138 人	1.0 人
３年	313 人	2.2 人	196 人	1.4 人
合計	616 人	4.3 人	494 人	3.4 人

３　不登校生徒及び不登校傾向にある生徒の改善状況（のべ人数）

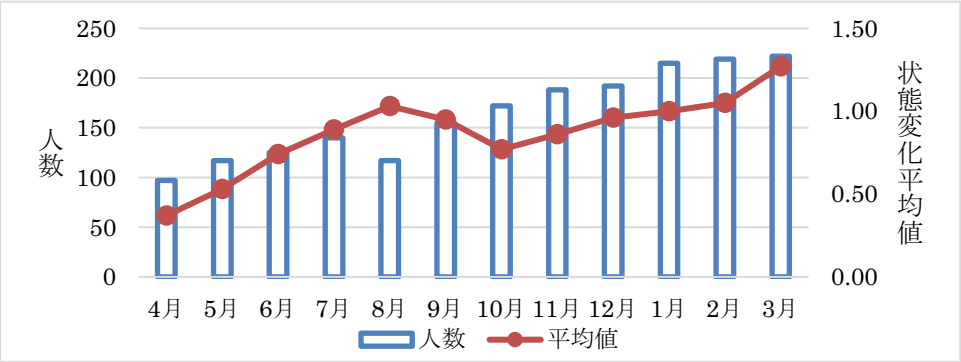
改善内容	令和３年度	
	合計	月平均
不登校傾向にある生徒が、主に教室で過ごせるようになった。	379 人	31.6 人
〃　主に別室で過ごせるようになった。	1,159 人	96.6 人
〃　主に保健室や玄関先等に登校できるようになった。	113 人	9.4 人
〃　主に放課後登校できるようになった。	80 人	6.7 人
〃　主に関係機関等で過ごせるようになった。	108 人	9.0 人
合　　計	1,839 人	153.3 人

４　メンタルサポーターの支援による生徒の状態変化

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
人数（人）	97	117	125	140	117	155	172	188	192	215	219	222
平均値	0.37	0.53	0.74	0.89	1.03	0.95	0.77	0.86	0.96	1.00	1.05	1.27

※人数：メンタルサポーターがその月に支援した実数。

※平均値：前月と比較した生徒の状態をメンタルサポーターの見立てで「好転（＋１）」「退転（－１）」「維持（±０）」で数値化した値の平均



５　成果と課題

（１）メンタルサポーターの支援活動は、担任や不登校担当教員とは異なる立場からのアプローチであるため、不登校生徒にとっての心の拠り所となっている。そのため、メンタルサポーターは、学校組織になくてはならない存在となっている。

（２）各学校のメンタルサポーターだけで解決が難しい問題については、学校内での組織対応、メンタルサポーター同士の情報共有、教育相談センターとの連携によって解決を図ることができた。

（３）中学校の別室運営については、不登校傾向のある生徒だけでなく、学校不適応を起こしている生徒の心の安定の場として環境を整えている。常時学校に勤務するメンタルサポーターが中心となって、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と当該生徒のための情報交換を行い、生徒に適した支援をすることができた。しかしながら、別室利用生徒の増加に伴い、別室に入りづらくなる生徒が出てきたり、活動スペースが手狭になったりと、対応に苦慮している学校もある。